

令和 4 年度 墨田区立竪川中学校 経営報告書

令和 5 年 3 月 15 日

学 校 目 標	徳育・知（智）育・体育の調和のとれた、人格の形成を目指す
目 指 す 学 校 像	授業が充実し、生徒と生徒、生徒と教職員の間に信頼関係のある学校 チーム堅中として、クワトロゼロ（いじめ・不登校・校則違反・偏食）を目指す
目 指 す 子 供 像	① 心豊かな、美しい感性をもった生徒 ②意欲的に学習する生徒 ③たくましく、何事もやりぬく生徒
目 指 す 教 師 像	人権意識を高め、生徒や保護者に寄り添い、現実を直視し情熱をもって職務を遂行する教師

1 自己評価結果と学校関係者評価の状況

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
各教科等指導	学校は、確かな学力を育てるための、分かりやすい授業を実施しているか。	B	授業改善プランの実施状況に対して、自己点検を行う。振り返り学習として振り返りシート、単元末テスト実施。タブレットの有効活用を通して、分かりやすい授業、家庭学習の充実（家庭学習帳の提出）を図る。	A	A
	学校は、特別な支援を必要とする子供に対しての、組織的な支援等を行っているか。	B	特別支援教育推進委員会の機能を充実させる。不登校生徒の別室登校による個別学習指導、特別支援教室活動への組織的支援体制の充実を図る。	B	B
	学校は、社会的自立に向けた進路指導・キャリア教育・相談活動等に取り組む。	A	SCの全校面接を実施し、年5回のいじめ調査や、教育相談期間で得た情報を全教職員で共有し、進路指導・相談活動に生かす。7月・12月・3月の年3回の教育相談を実施する。	A	A
	学校は、教員の指導力・授業力の向上のための、組織的な取組等を行う。	B	○道徳の授業では、【別様】による各教科との連携を図る指導をしている。○2年間の研究協力校の取組を継続し、指導と評価の一体化の精度をより高めるため、生徒の学習意欲を向上させる評価の仕方に視点を置き成果と課題の発表に取り組んだ。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	コロナ禍、家庭事情等の理由から、堅中も不登校の出現率が増えている現状、今後も生徒一人一人への親身な対応をしてほしい。とのご意見をいただいた。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
生活指導等	学校は、子供の問題行動の予防や解決に組織的に取り組んでいるか	B	次年度も、警察署との連携で7月に薬物乱用、3月にSNSの安全利用について年2回のセフティー教室を計画する。また、SNSの利用上の注意点については、堅中ルールを生徒自らが考えさせることにより、情報モラル教育の充実を図り、問題行動の予防と解決に取り組む。	B	B
	学校は、基本的な生活・社会習慣、人間関係づくりのための心の教育等に取り組んでいるか。	B	道徳において、考える道徳・議論する道徳を実践し、【別様】の作成を通して、各教科との連携の取れた指導をしていく。また、生徒に伝わりやすい評価を実践していく。	B	B
	学校は、危機回避能力の育成や子供の安全を確保するための取組等を行う。	A	あらゆる災害条件、時間帯を想定し避難訓練を実施している。また、防災ヘルメットを生徒椅子に設置し有事に対応する。さらに、9月1日には、全校における防災ヘルメット着用し集団下校を計画・実施している。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	Q:区内で、防災ヘルメットを生徒一人一人に配布している学校はどれぐらいあるのか。A:区内では、本校のみです。ヘルメットの経費は、どこからでているのですか。A:P T Aより寄贈されたヘルメットを配布し活用している。防災意識が高まるとの意見をもらった。			

様式 4

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
学校の管理運営	学校は、経営方針に基づいた、組織的な教育活動・学校運営等を行っているか。	B	組織としての改善策を全員のものとし、一人一人がそれぞれの役割を果たす。教員同士による、年2回の互見授業週間を継続し、主幹・主任が若手教員を指導するOJTを実践する。	B	B
	学校は、子供の実態に合わせた教育目標設定及び学校評価等を適切に行っているか。	B	前後期の授業アンケートだけでなく、普段からの生徒の様子を全員が共有することをさらに進める。また、50分の授業での適正な評価に努める。	B	B
	学校には、適切な教育活動が行える教育環境・設備等を整えているか。	B	概ね施設・設備は整っている。体育館・格技室の空調設備を有効的に活用し、熱中症対策、冬季の怪我の防止に今後も取り組む。	B	B
	学校関係者評価委員会の意見等	区の学力調査等で、堅中の生徒の学力が向上していると聞くが、何故か。との質問があり学校は、全校生徒授業アンケート「授業に満足しているか」の項目 78%~100%、「興味・関心が湧き、学びたいと思えるか」の項目 70%~98%との肯定的回答を得ていることから、教える教員の学習指導力が向上している点と学習習慣を身に付けるために家庭学習ノートの取組の成果と説明した。			

項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善策	自己評価について	改善策について
家庭・地域連携	学校は、教育方針や日常の教育活動の様子などを工夫して分かりやすく伝える取組等を行っているか。	B	学校便り・学年便りの発効は定期的に行われている。それが、全部の保護者に伝わるような返信欄等を設ける。また、学校ホームページの更新、学校連絡・情報サービス（コケ）の有効活用に取り組む	B	B
	学校は、保護者や地域の理解や協力を得た教育活動を行っているか。	A	学校支援地域協会を中心に、地域の協力は現状でも十分であるが、学校だより等で3年生受験対策「リアップ」面接練習会の活動を保護者、町会等へ伝え、理解と協力を得ていく。	A	A
	学校関係者評価委員会の意見等	コロナ禍でも行っている1月の学校支援地域協会主催の【面接練習会】は、素晴らしい取組です。今後も継続して行ってください。			

2 令和4年度学校評価のまとめ

○不登校生徒の出現率が上がっている現状で、本校は、5.8%と基準となる6%を超していない現状を理解していただいた。今後も登校渋りの段階からの不登校未然防止、長欠生徒からの段階的な教室復帰のための「スモール・ステップ・ルーム」支援員の活用を生かしていく。○生徒の安全確保に向け、9月の一斉下校時のヘルメット着用、避難訓練時にヘルメット着用による避難等を計画的に実施し危機回避能力を身に付けさせる。○今後も生徒の夢を叶えるために（いじめ・不登校・校則違反・偏食）ゼロ、わかりやすい授業、家庭学習ノート、各種コンテストや検定を実施していく。○今後も地域人材を活用し、地域と連携した学校運営を実施していく。

以上の通り報告いたします。

墨田区立堅川中学校 校長 織部 明広 公印省略